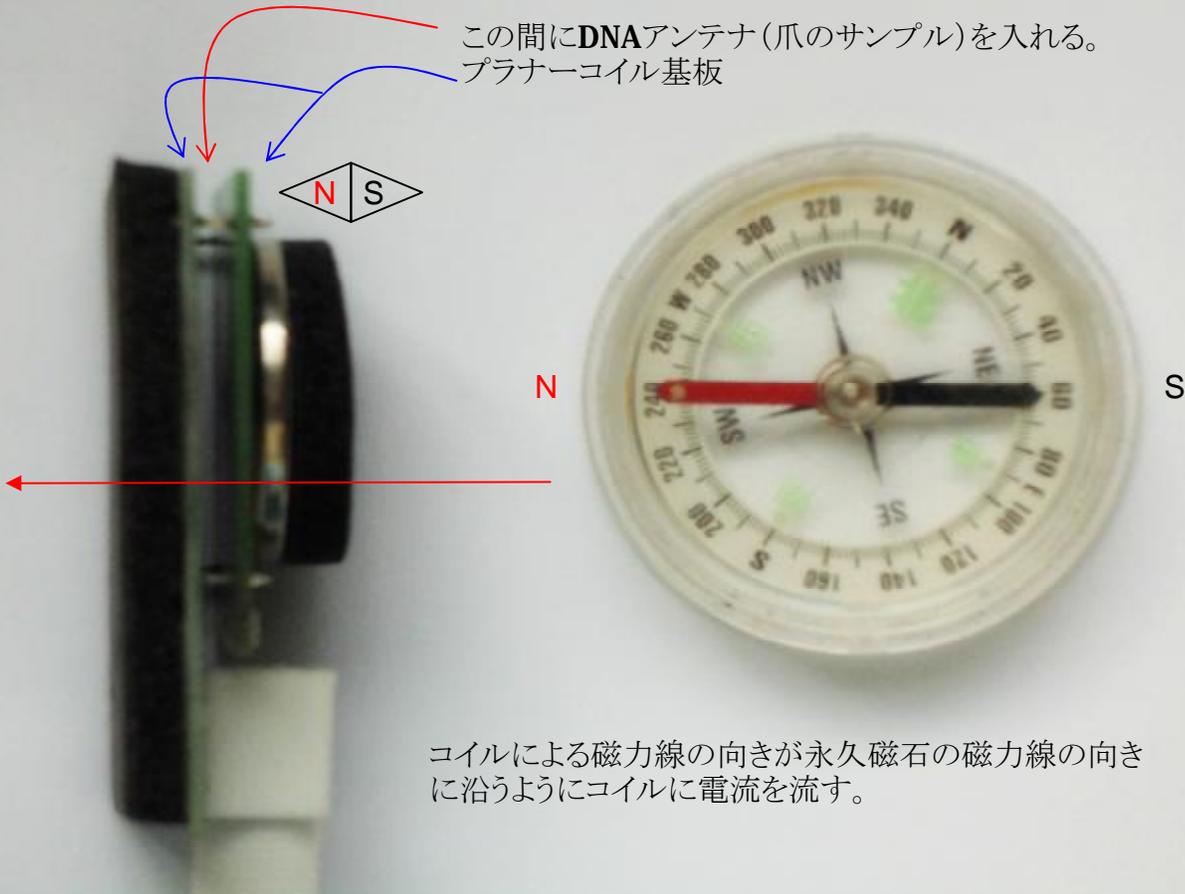
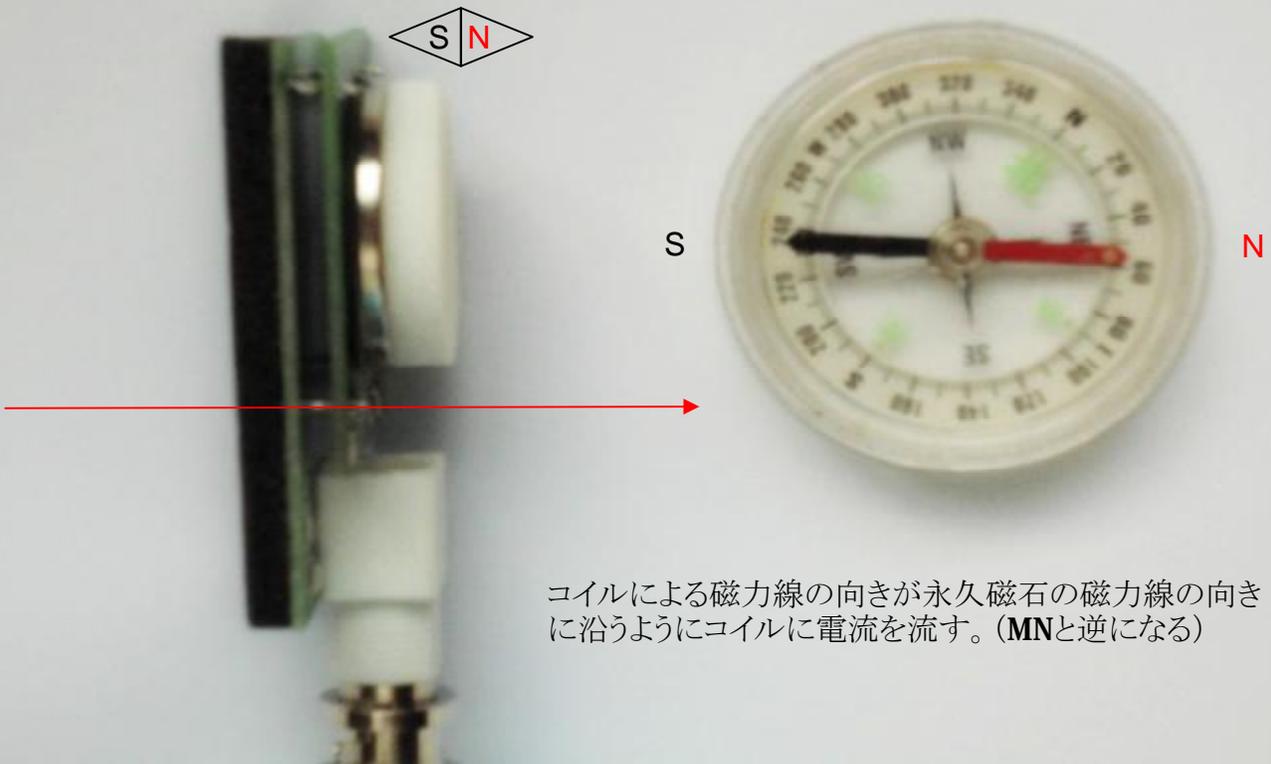


Spooky Remote MN (Magnetic North) 黒丸

この間にDNAアンテナ(爪のサンプル)を入れる。
プラナーコイル基板

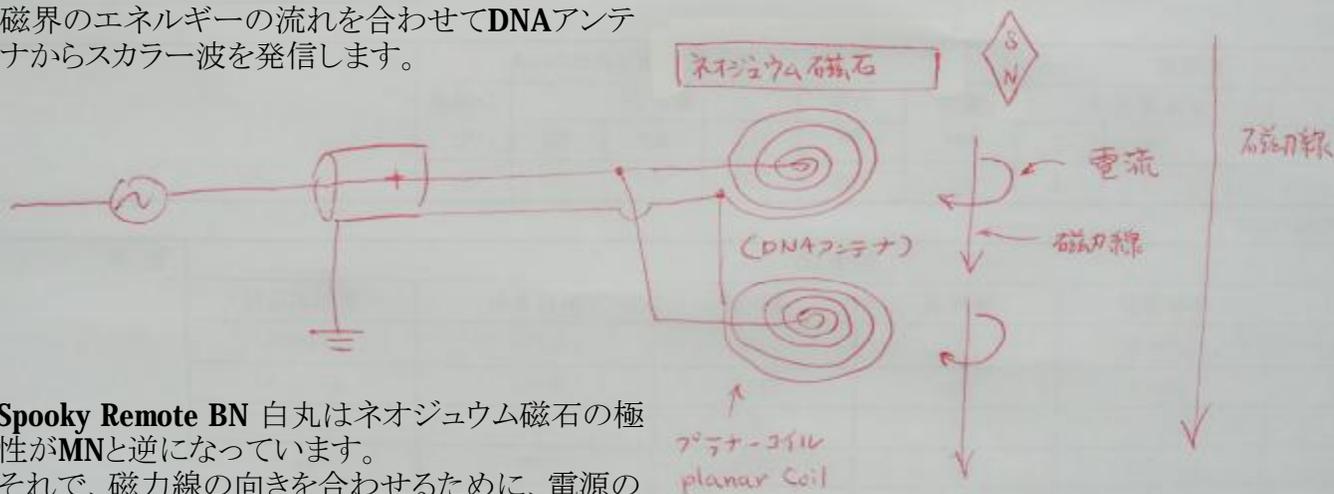


Spooky Remote BN (Bio North) 白丸



Spooky Remote MN 黒丸の構造図 (実際の設計図ではありません。)

磁界のエネルギーの流れを合わせてDNAアンテナからスカラー波を発信します。



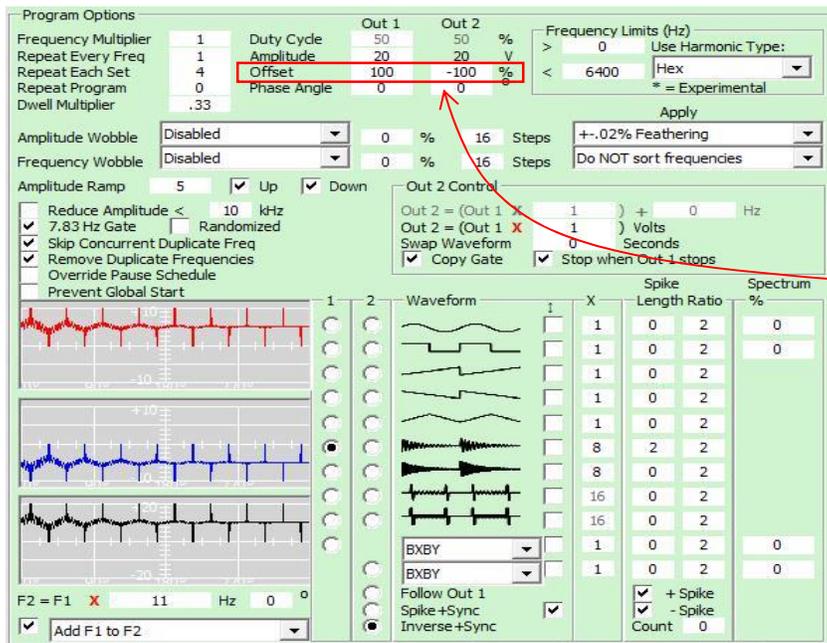
Spooky Remote BN 白丸はネオジウム磁石の極性がMNと逆になっています。

それで、磁力線の向きを合わせるために、電源の送りを「-」にする必要があります。

Spooky Remote MN (Magnet North) 黒丸を発信機(generator)のOUT1につないで周波数を **100%** オフセットして使用すれば永久磁石の作る磁界エネルギーの向きと合った磁界エネルギーをプラナーコイルが作り出し、**DNA** サンプルを振動させスカラー波を体のDNAアンテナに送ります。

同時に**Inverse Sync** (逆位相同期) で、**Spooky Remote BN (Bio North)** 白丸を発信機(generator)のOUT2につなぎ **-100%** オフセットにして**Spooky Remote MN (Magnet North)** 黒丸と一緒に使えばシナジー効果(相乗効果)によりスカラー波を強化することができます。

(多分、この手法が最も強いエネルギー協調と思います。)



Spooky Remote MN と **BN** を同時に使う際のオフセットについて。

OUT1 に **MN** (黒丸) **Offset 100%**
OUT2 に **BN** (白丸) **Offset -100%**
と発信機につなぎます。

OUT1 (**MN**) は **100%** オフセットします。
OUT2 (**BN**) は **-100%** オフセットします。



Spooky Remote を用いる際に**100%**オフセットを使わず極性の変わる交流周波数を送ると磁界も極性を変える(磁力線の向きが変わる)こととなります。永久磁石が作る磁界のエネルギーの流れの強さからすればごくわずかな逆磁界エネルギーが発生することとなりますが、それがスカラー波の発生や人体にどんな影響を及ぼすのかは今のところ未知です。

それで**Spooky Remote MN**および**BN**を使用する際には体の反応などに注意深くあり適切に運用する必要があります。わたしは、**MN (offset 100%)** と **BN (offset -100%)** で両方をノンストップで動かしています。悪玉菌の殺菌により体の排毒現象による体の一過性の変化はありますが、スカラー波による深刻な悪影響はありません。

悪玉菌の殺菌により生じる毒素を体から排泄するために、殺菌プログラムと解毒(**Detox**)プログラムを交互に使用するように勧められています。たとえば、**1週間殺菌プログラムを連続し、1日はDetoxプログラムを行うパターン**とか、微生物が活発になる夜の間は殺菌プログラムで日中は**Detox**プログラムとか、自分で考えて色々試すことができます。

良い結果や悪い結果を共有し**Spooky Remote**の効果的な使い方を確立するためにフォーラムを活用することは実際的だと思います。

人により電磁波や特定周波数に対する反応が異なりますので自分に合った組み合わせや設定を見出す必要があります。**Spooky**システムの活用を考えているなら、自己責任で**Spooky**システムを自分の健康に役立てることになります。

交流電流は**180度**周期ごとに向きが逆になります。

向きが変わるとその電流により作られる磁力線の向きも変わります。

Spooky Remoteはネオジム磁石による**1方向**の磁力線の中に**DNA**サンプルをセットして**2個**のコイルに電流を流し磁力線による振動を追加して**DNA**アンテナからスカラー波を送る仕組みになっています。

通常の交流電流の場合、電流による磁力線の向きは**180度**周期で逆になりますので、**180度**周期ごとに永久磁石の磁力線の向きとコイルの磁力線の衝突(エネルギーの衝突)が起きます。

コイルにより作られるエネルギーは永久磁石のエネルギーと比べると取るに足りないものですが、そのエネルギー衝突は、**DNA**アンテナをとおして体の全ての細胞へ送られるスカラー波を弱めると思います。

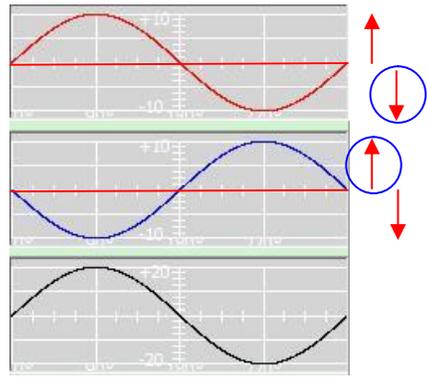
一方、永久磁石の磁力線の向きとコイルのつくる磁力線の向きを合わせるなら、スカラー波を作り出すエネルギーを強めることができると考えられます。

それで、リモートの磁力線の向きとコイルのつくる磁力線の向きを合わせるために**±100%**オフセットを使います。

Out1
MN (Magnet North) 黒丸

Out2
BN (Bio North) 白丸

Out1とOut2の合成波
Peak to Peak 合成

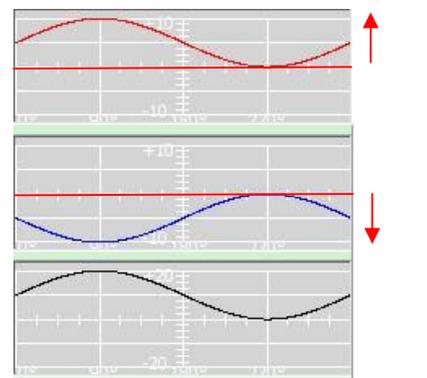


黒丸の永久磁石の磁力線の向きは上向きなので
コイルの作る下向きの磁力線と衝突する。

白丸の永久磁石の磁力線の向きは下向きなので
コイルの作る上向きの磁力線と衝突する。

Out1 100%オフセット

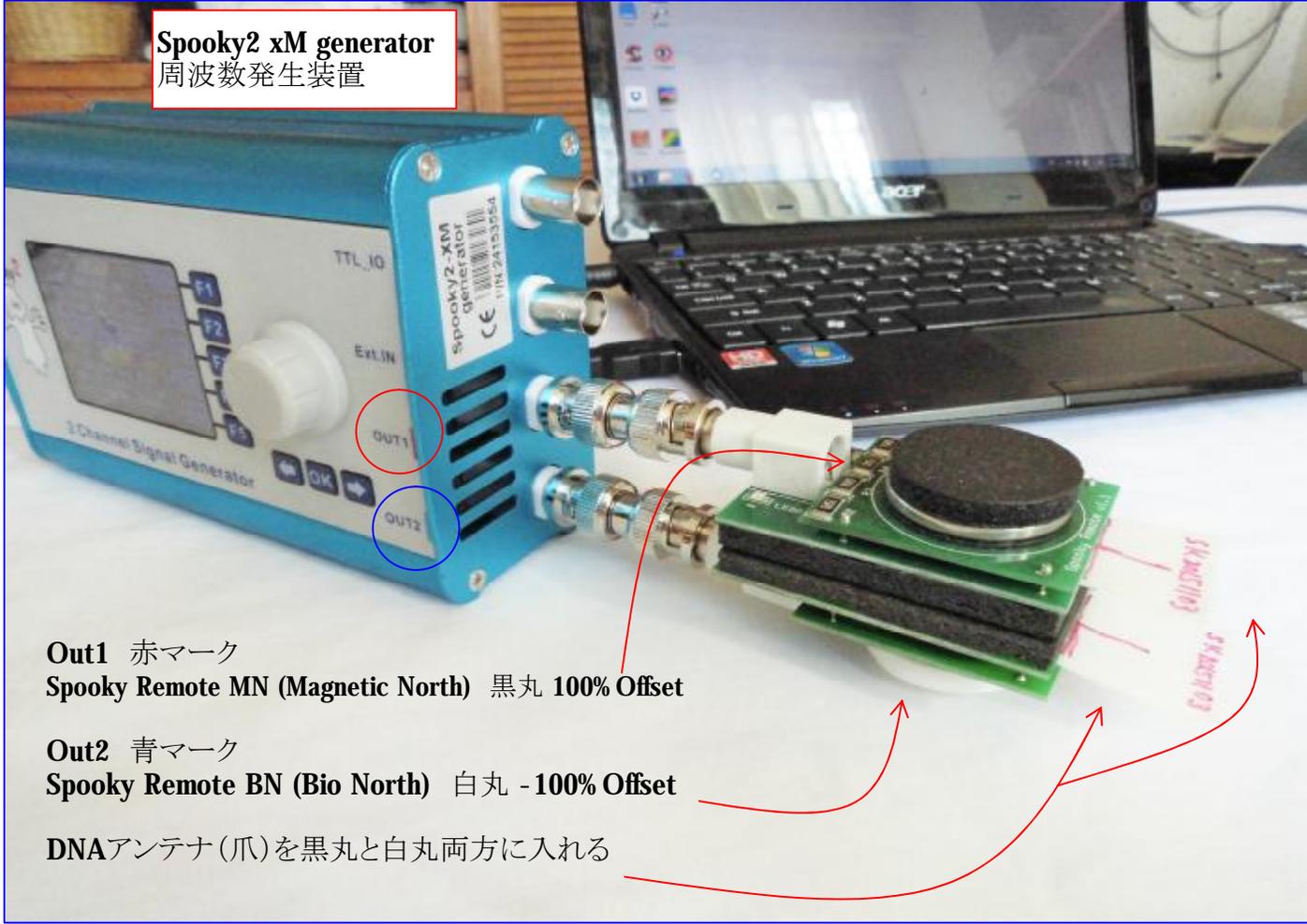
Out2 -100%オフセット



黒丸の永久磁石の磁力線の向きは上向きなので
コイルの作る上向きの磁力線と合成するのみ。

白丸の永久磁石の磁力線の向きは下向きなので
コイルの作る下向きの磁力線と合成するのみ。

Spooky2 xM generator
周波数発生装置



Out1 赤マーク
Spooky Remote MN (Magnetic North) 黒丸 100% Offset

Out2 青マーク
Spooky Remote BN (Bio North) 白丸 -100% Offset

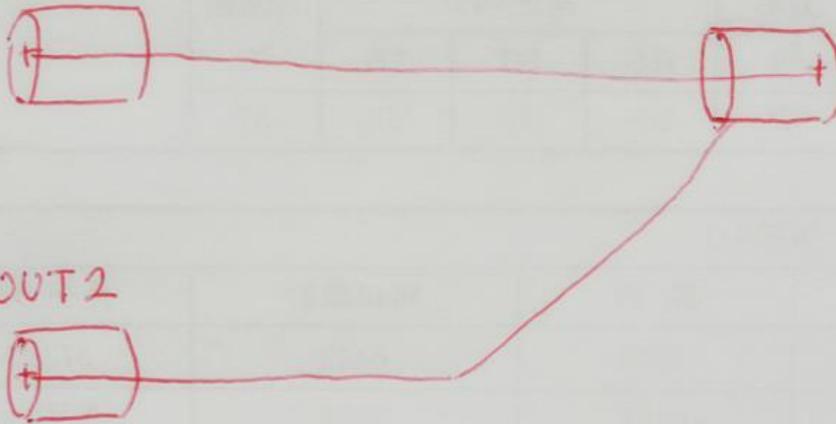
DNAアンテナ(爪)を黒丸と白丸両方に入れる

Spooky boost cable の構造
ジェネレータのOUT1とOUT2を両極としています。

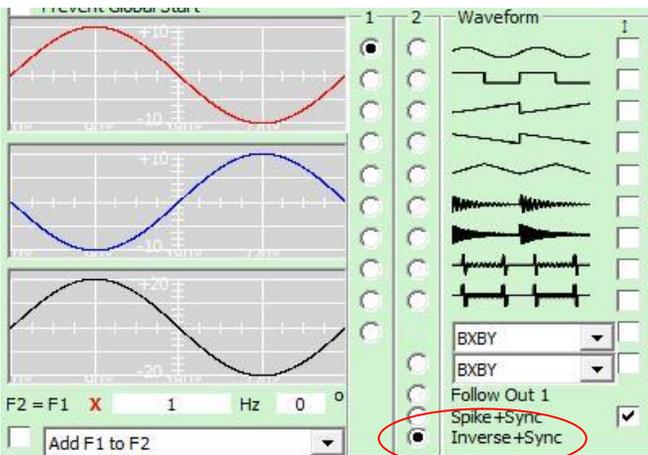
OUT 1

それで、ブースケーブルを使う際にはOUT1, OUT2のシグナル出力はInverse + Sync(逆位相同期)を使います。

OUT 2



Program Options		Out 1	Out 2	Frequency Limits (Hz)	
Frequency Multiplier	1	Duty Cycle	50	50	> 0
Repeat Every Freq	1	Amplitude	20	20	Use Harmonic Type:
Repeat Each Set	1	Offset	0	0	Octal
Repeat Program	0	Phase Angle	0	0	* = Experimental
Dwell Multiplier	1				



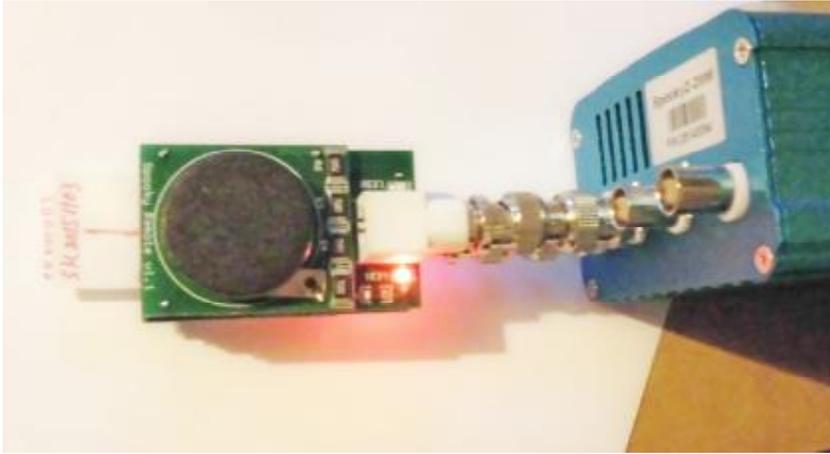
ブースケーブルとリモートを使うときの設定は、**MN**(黒丸)、**BN**(白丸)のいずれもオフセットを**0**にします。

Out2は、必ず**Inverse+Sync**を選んで**Out1**と逆位相同期にします。

ブースケーブルの出力は**1**つなので**MN**(黒丸)、**BN**(白丸)いずれか**1**つを使います。

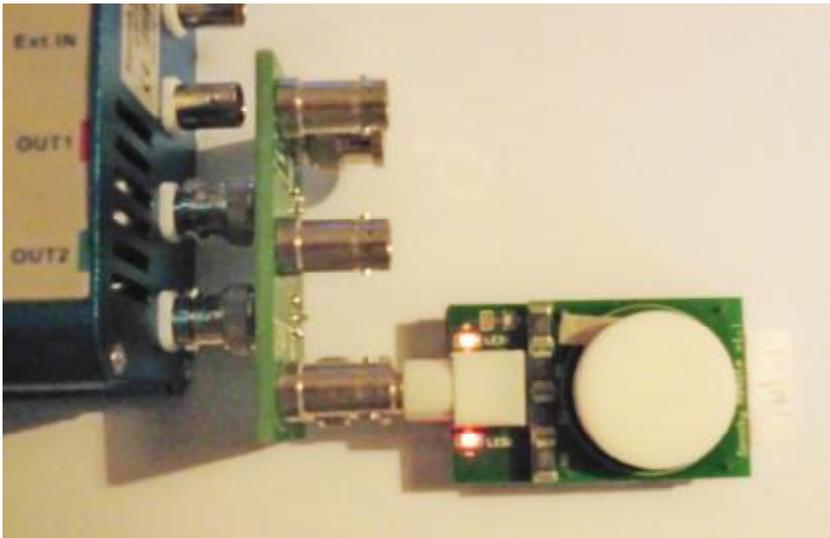
結線の仕方は仕方は、**MN**と**BN**では、赤と青のマークが逆になります。





Offset 100% にすると、この写真のようにリモート側から見て右側(発信機から見て左側)の**LED**だけ点灯します。

Offset -100% にすると、リモート側から見て左側(発信機から見て右側)の**LED**だけ点灯します。



Offset 0 の場合は、

1秒間に周波数回、左右の**LED**が点滅します。

1秒間に何万回も点滅する場合、人間の目はその点滅を識別できません。

それで、両方の**LED**が点灯しているように見えます。

周波数が**60Hz**とか低ければ点滅を確認できます。